

2013/2/25

全国紙管組合・東部地区部会研修会

武川産業株式会社
総務担当 和田

【日時】

2013年2月22日(金曜日)16:00～17:00

【場所】

丸の内 GRAND CENTRAL OYSTER BAR RESTANRANT

【講演タイトル】

中国、東南アジアのマーケット状況

【講演者】

山發日本株式会社 藍副社長

※台湾正隆社の日本法人

資本金:4億8,000万円

会社設立:1994年11月

主な事業内容:輸入原紙、輸出古紙、パルプ、プラスチック類、工作機械

2010年後半より工場用LED事業を始め、環境問題に取り組んでいる。

正隆海外グループ

台湾事業所:12社

海外事業所:中国13社、タイ1社、ベトナム2社、日本2社、アメリカ1社

【中国情勢】

- ・ 中国はGDP7.9%成長している。
- ・ 12月主要70都市新築住宅価格は、前月比上昇の都市数が54(前月同53)、中古住宅では同46(前月同35)と共に増加。
- ・ 紙の成長率対前年比2011年12%、2012年-1%。
中国は成長している国なのに、何故紙の成長率がマイナスになるのか。
情報に関して、表に出ている数字と実際(現場)の数字とは違う可能性がある。

- どんな情報を見て判断するのか、今は情報がありすぎて判断する数字がない。
- 中国の不動産はアメリカ、ヨーロッパの金融緩和からくる資金の流入もあり価格が上昇している。
- 上海地区だと、一戸建て 7,000 万円位で相対的に日本より不動産価格が高い。
中国の収入は 1 人当たり都市部で 25,000 元、農村部 8,000 元で昔よりも上がっている。
- ※ 現在のレート 1 元 = 15.306 円 $25,000 \text{ 元} \times 15.306 = 382,650 \text{ 円}$
 $8,000 \text{ 元} \times 15.306 = 122,448 \text{ 円}$
- 中国で収入は増えているが、不動産は買うことができない。
- 中国のホテルも安い感覚があったが、今は東京とほぼ同じ。
年所得が $25,000 \text{ 元} \times 13 = 32 \text{ 万円}$ で泊まれるかといえば泊まらない。
- 情報量が増え、さらに情報の変化が早い。
- 価格というもの扱う人の心理的な期待により上下する。
- リーマンショック以降、景気が読めなくなった。
- 中国国内の内需過多は回復しているが、インフレは拡大している。

※ 輸入インフレーション

他国の輸入を通じて国外のインフレーションが国内に影響し発生する。例えば穀物を輸入していた国が、輸出元の国の内需が増加したり輸出元が他の需要国へ輸出を振り分けた場合などに穀物の輸入が減少し、穀物価格が上昇するといった具合である。実際に中国が穀物純輸入国に転じた際、トウモロコシ市場で価格急騰が起きたことがある。

中国は今、物価上昇が異常。しかし止められないおおきな流れ。

中国では、物価が上昇して困っている。

- 日本のガソリンの過去 5 年価格推移によると、原油が 08 年で 145 ドル、13 年で 110 ドル、為替は 08 年 91 円、13 年 93 円で 102%、ガソリンは 08 年で 185 円、13 年で 155 円で 84% になっている。
- 情動的・心理的な影響により、価格(数字)が変動している。
- 将来は中国企業が海外に移動する。
- 中国国内投資前年比 97.3%、中国から海外への投資が 128%。
- 中国は人件費が上がっている。物価が上がっている。
- 中国は他のアジアの国と比べインフラ、通関はしっかりしている。

【その他の国の情勢】

- ベトナムは交通渋滞等、インフラがまだ整っていない。

- ・ ベトナムは人件費、物価が低い
- ・ ベトナム、タイ、カンボジアに関しては貿易収支黒字だが、インフラがしっかりしていない。
- ・ ベトナムは中国の 10 年前を見ているかのようにこれから成長してくる。
- ・ 金利の安い日本で借りて海外に投資する。
- ・ 日本や欧米はこれからも低金利が続く。
- ・ インドネシアは 1 月末で金利は 5.75%、ベトナムで 6.7%、インド 7.5% でまだまだ金利差がある。

【今後の海外進出について】

- ・ 海外に進出するなら早くいったほうが良いと言っている人もいるが、人材、お金がそろわなければ成功率が違う。
- ・ マーケットはどこにでもあるが、人材とお金は別のもの。
- ・ 海外にチャレンジしてみるのであれば、当然現地で根を張るしかない。
- ・ 日系企業で失敗しているところが「ダメだったら帰る」というところ。
- ・ 日本はローカルの文化、海外の文化になじめていない。
- ・ 韓国のサムソンでは社員教育の中で毎日の日常生活を監査してレポート。言葉の勉強もする。
- ・ 成功するまでは帰れないという気持ちが大事。
- ・ 日系企業の悪いところは担当者が 3 年交替し、現地のことをようやくわかりあってきたのに、交替になり次の担当者は、また初めからというところ。
- ・ 為替リスクに関しては、コントロールすることができない。波の乗るしかない。
- ・ 何が一番大事かお金でも、マーケットでもない、人材が問題。
- ・ 個人の考えでは韓国の事例を見て釜山の港灣管理公社を作ることはどうだろうか。
- ・ 会社単独だと怖い。リスク分散として韓国の公社を見習い、良いところは真似て作る。運命共同体になって人材を出し合う。
- ・ 企業単体で日本人を現地に送ることになると、労務、税金問題は 1 人の力だと限られている。
- ・ 海外の現地の優秀の人にオーナーになってもらうことができれば成功率は高くなる。

【質疑応答】

- ・ ローカルの企業を買うのはどうか。
 - 問題は人材。
 - 日本人の人件費は高い。
 - 帰ることを考えたら、成功はない。骨をうずめる覚悟がいる。
 - 現地のスタッフにも出資してもらい、オーナーになってもらう。

- ・ 日本に海外の優秀な人間を連れてきて育てて送り出すのはどうか。
 - 日本人は日本の考え方で現地を指示する。
優秀なローカルの人で日本語を話すことができるのであれば、その人にオーナーになってもらう。
お金持ちになりたい人、社会的地位を高めたい人はたくさんいるので、成功率が上がる。
日本人が行くより成功しやすいのではないか。

- ・ 古紙の価格は中国で調整されているのではないか。
 - 日本の社会の考え方がみんな平等。だから価格が安定する。
アジアの国は原料不足 45～55%輸入に依存している。
日本とアジアの国では、需給バランスが違う。情報に合わせて価格が上がったり、下がったりする。価格が安定することがない。

【その他意見】

- ・ 海外進出をするにあたって、人が一番大事である。
- ・ 中小企業の場合は次に海外に出す人がいない。任せていく、そういう人がいない。
- ・ インドネシアでは 96 年の通貨危機や暴動、民主化運動で非常に苦労した。
- ・ 日本企業から一流の人材を海外に送り込まないと伸びない、工場がダメになる。
- ・ 日本の本体の企業がどれだけ我慢ができるか。
- ・ 日本は海外の慣習を理解することが大事。
- ・ 日本企業は現地のいいパートナーを見つけて、タイアップするのがよいのではないか。

【まとめ】

現在は通貨の戦争をしている。インターネットでは後追いの情報しかない。波の乗るしかない。まずは日本の本体をしっかりし、余裕があれば海外とともに生きることが大事。